

「黒色戦線」第二巻第一号 (昭和七年 (1932) 一月一日発行)

目次

- 一 ソヴェトロシア五カ年計画の曝露
- 二 無政府主義の組織と行動に関する一般概念

(茲では資料として右の二篇を掲出する)

ソヴェート ロシア五カ年計画の曝露 (松尾伍之助)

「ロシア共産党の官僚的横暴」

ロシア共産党に於ける官僚主義に対する党内デモクラシーの争いは今日にはじまったことではない。ロシア共産党中央委員会の一九二八年六月のアピルは『我が機構の官僚的贅物、時折に出現する官僚的横暴、身びいき、お役人ぶった尊大、頑迷、大衆の利益の無視、小ブル的ノホホン主義』が党と政府に充滿することを告白している。いかに該官僚主義から脱却しようとしても『党内批判の自由を確保し、之によってあらゆる独自の思想、あらゆる批判を頭から歪曲だ、水をさすのだといって汚名を被せる慣習』は、かれらの組織そのものから来る必然的の所産であって、これから逃れる方法は組織あるかぎり不能である。

一九二八年には有名なシャハティ事件が公表された。それはドネツ盆地の炭田地方に起った反革命事件である。その内容は、シャハティ炭田区の経営主脳部が、ドイツ資本家及炭田の旧持主と通謀して、故意に良質の炭層を隠蔽し、機械に故障を起こさして探炭を妨げ、坑夫を煽動してストライキを為さしめ、ボルシェヴィキの経済を妨害せんとした事件である。が、然し、この事件の意義は、資本家の反ソヴェエトブロックの一具体化として把握することではない。実に、この事件には共産黨員がいたということである。『アル

テモフスクの組織の最上部には少数の墮落した共産主義者がいた。かれ等は美酒をのむことから婦人に対する暴行に至るまで、出来るかぎりの不正を行った。』なぜ彼等は墮落したか。

それから、このような不正に対し、黨員は『口を塞がれていた。』という事実。ヤロスラウスキー (事件の調査委員) の報告によれば『党の集会は党外の者の集まりよりも活気が少なく、また内容が充実していない。党集会には非常な重苦しさを感じられた。党の集会は党外の者の集まりよりも活気が少なく、また内容が充実していない。党集会には非常な重苦しさを感じられた。黨員はアルテモフスクの党最上部の長い間の支配によって作られた気分からなお未だ脱していない。云々。』

この一小事実は何をもの語るものであるか。強権下のロシア民衆が、ただ権力に圧殺されて生活しつつあることの事実を示すものである。必然的な党の墮落及び強権下に窒息せる民衆生活の縮図である。『我国には同志モロトフが第十五回党大会で述べたルヤザン事件があった。アルテモフスク事件があった。被告の首領に市民戦の参加者がいたゾチーの事件があった。ウオロネシュ事件があった。その事件では文字通り公共財産を掠奪してそれを配当していた。この団体は党の組織と連絡をもっていた。(プロリンの演説、一九二八年)』

権力あるかぎり、権力の位置にあるものが、それを私利及私慾に盗用することは、組織からくる必然である。官僚主義の克服に対するスローガンは単に紙の上に終ることは言を俟たないところである。このような党及政府の腐敗から来る被害に対する怨嗟はロシア国内に充滿しつつ一九二八年は、その民衆不満の頂点にあった。

ロシア五カ年計画とは何か?

ロシア五カ年計画は、この怨嗟を転換する最後の切札であったのである。『五カ年計画というのは、一九二八年度から一九三三年度の間にいたる五カ年間の経済発展を、年に一定のプログラムに従って推進せしめてゆく計画のことである。』本年はその第三年目に相当する。

これに先立って、一九二一年にはいわゆるネツプ (新経済政策) が採用せられ、二五年には更にネオ・ネツプ (新経済政策) が採用せられた。ボルシェヴィキは、この資本主義への総退却を目して農民階級のサボタージュの罪に帰せしめている。この時代に於ける農業生産は殆んど二分の一に減退した。然し都会の工業生産は実に十一分の二に、運輸は五分の一に減退したのである。農村は砂糖、ケロシン油、更紗、農具の欠乏は言語に絶した。『もっとも緊急な要求すら満たされなかったのみならず現に在るものの配給は非常な官僚主義と延引が伴った。(アイヘンバリッド)』すなわち、農民は無償で横柄に徴発されるのみであったのである。都会は『農民が農業をいとなみ貧困より脱却せんとするのを助けなかったばかりでなく、更にそれを妨害していたのである。』ロシアの農業は反別収獲量に於ては世界農業国の最低位にある。その若干の理由のうちに農具の極端な欠乏ということが重大な要因をなしている。すなわち、ヨ

ローパロシアでは犁を持っていた農民は全体の四六%にすぎず、ウクライナでは三九%、その他の田舎では二五%であった。革命によって土地飢饉を医やすことかできた農民は、獲得した土地を耕作する農具をもたなかったのである。徴発官吏は元よりそれ等の事情を考慮することはなかった。かれ等は上級官吏の命令通り穀物を奪掠した。それが明らかに無理である場合にもチエカの監視を恐れて敢えて農民の窮状を察するところはなかった。而も穀物徴発は点々と散在する小農からよりもクラーク（富農）及上層中農の農場から穀物を獲得することが便利であるに違いない。それ故、政府は屢々富農と政治的諒解をもった。貧農が地主から農具を収用することができなかった理由は、この政治的事情にもとづくものである。

このような実際の方針は今日に至るも依然として変わるところはない。『此等の手段（穀物の蒐集）を遂行するに当って、疑いもなく党の方針の誇張や違犯がたくさんあった。貸付金に拘わる強制的手段の幾多の例、及び元来富農にむける筈であったのに却って中産と貧農とが主に苦しめられる圧迫の幾多の例、尚また第一〇七条の誤れる適用の幾多の例。云々（一九二八年・スターリン）』『裁判の決定なく穀物貯蔵品を没収すること、家宅捜査、防衛隊の設置、借入金金の強制的貸出し、並びに地方の役員が案出した他の策略。往々にして全くの徴発、強力的な手段が現われた。その為若干の農民さえも射殺した。云々。（一九二八年・ブハリン）』『人間が無暗みに殺されて堪るか。

「ネップ及びネオ・ネップとボル経済の破綻」

ネップ及ネオ・ネップの原因は、ボルシェビキの言うように、『農民のサボターージュ』でもなければ、『特殊なものからの順応経済への復帰でもなく、中央集権経済組織それ自体が成立し得ない根本的事情に基づくものである。マルクス主義の経済的実践に於ける破綻にほかならない。それはネップ及ネオ・ネップにいかにか反映しているか。

一 経済的分権

一 大企業以外の個人経営への復帰

一 交換、商業への復古

経済的分権とは何であるかと言えば、個人の企業に対する責任者への権限の拡張である。最高経済会議が管理局を、管理局がトラストを、トラストが企業を、上から下へのその順次的な実状におかまいなしの命令は企業を円滑に運転せしめ得ない。それ故、企業の責任者（旧ブルジョア時代の支配人）に生産上の件について容喙しないことの謂いである。この方針は漸時拡大されて、のちには工場経営に対する労働組合の容喙の権利が否定せられ、資本主義下に於けると同様、生産のための事実上の牛馬主義が復活した。大企業以外の中小工業の個人経営への復帰とは、中小工業は無数であり、而も、中小工業こそ国民の直接なる消費物を生産する場所である。従って多数であると共に、際限なく種別規画は多様であり、これを集積的管理に移すことは不可能である。何によって計算し何によって管

理することができるか。中央集権経済は大企業のみについて管理することはできるが、この最も実際的な国民の直接消費に應ずる工業に手をつけることは出来ない相談である。それ故、これを私人に譲渡し、ここにいわゆるネップが発生した。而して、この傾向は大企業及貿易まで及んだ。交換及商業への復古とは何であるか、中小企業の私経営が行われその生産品は商人の手を通じて需要者にわたされる。農民は、最初には現物の中には貨幣によって農業税を政府に納付し、その余剰は自由処分ゆだねられ、この部分が必要なる都会生産物と交換されるに至ったことである。これを通貫するに、大企業を残して事物はすべて資本主義的方法に復帰したことであるが、それは、前説のようにマルクス主義のそれ自身の中央集権経済の破綻に対する資本主義要素の援用であったのである。すなわち中央集権経済は成立し得ない。

而して、この右傾政策の主張者はルイコフであり、理論的代表者はブハリンであり、スターリンは、トロツキー、ジノヴィエフ及びカメネフの左傾派ブロックがネップ政策を中心として右傾派と抗争している時に、その両方の間を動揺しつつ、党のうちに自己のヘゲモニーを巧みに確立したことは人々の知るがごとくである。

「穀物奪取と際限なき失業軍」

却説、ではネップ及ネオ・ネップの結果もたらされたロシアの状況は何であったか。それは、第一に資本主義的要素の濃厚化である。それは、私企業の所得が年額一億ルーブルに達したという事実にあるのではなく、より根本的本質的に政府及党の組織がブルジョアの分子によって占められつつあるという決定的な事実である。第二には、党及政府の腐敗、その官僚主義の際限なき蔓延の事実である。それは冒頭に於て細説したところである。第三に、依然たる物資の欠乏特に穀物の困難なる状態である。農業生産の増加率は漸時減しつつある。『すなわち一九二六年の増加率は一九%、二七年は四%、二八年は三%にすぎない。工業生産額は二六年が三九%、二七年が四四%、二八年が三三%である。（ヴァルガ）』増加のテンポには一定の緩慢化があらわれつつある。例えば都会の所要する穀物は四億三千万ブードのところ、一九二八年には三億ブードしか都市に供給されなかった。

この原因は何であったか。『今や失業者は存在しない。これらの人々は何処に行ったか？ それらの人々はソヴェト同盟で行われつつある大なるかつてなかった建設事業に吸収されたのだ。（インブレル誌）』というは莫迦げた見えういた嘘であって『わが農村に於ける失業者の数は六百万を超えている。（アイヘンバリット）』『工業労働者も二百万を下らない。

これ等の悲惨はなぜであるか。実際の農村に於ける分化行程を見なければ判らない。

『我々は棉花生産の発達を必要とする。この場合には我々は棉花に高い価格を支払い、同時にその地域に安価なパンを供給する。（ヴァルガ）』またスターリンは述べている。『穀物の価格がツリ上げられたならば』『その結果はどうなる？ 我等はわが工業の原料品の価格を目茶々々にしてうことになる。棉花栽培者は棉花の耕作をやめて、もっと有利な作物として穀物の方に注意をうつして

うだろう。亜麻の栽培者は亜麻を穀物に乗りかえるだろう。また、甜菜の栽培者もこれに倣うだろう。『すなわち、有名なシェーレ（鉄状価格）はボルシェヴィキの意識的な穀物政策である。そのひらきは約四〇％、農民は戦前と同一の量の穀物と引きかえに『戦前の量の三分の一の更紗、釘、ケロシン油をうけとる。』而して、この『鉄状価格差の形態に於て必要なのだ。（ヴァルガ）』と、かれ等は強調している。一方に於てはそれのために必要な物資は、購入することが出来ず、他方に於てはさきにも述べたように『全然徴発』される無償穀物があり、それを拒んだために銃殺される状態にあるということが農村の現状である。農民は一九一七年の革命で土地を手に入れることが出来た。『農民階級は大地主の土地のうち七千五百万ヘクタールを無償で得、クラクの土地所有から更に六千五百万ヘクタールを得た。この価値は二百億ルーブルである。』それは、もとより農民自身による直接の収用であった筈で、誰の庇護によつたものではない。それにも係わらずボルシェヴィキは、その功績を党に帰し、農民にその代償を強要している。農民の租税は、国家が農民経済政策の目的のために使用する部分を除いて、二億三千万戦前ルーブルである。而して、都市に売却する農作物は現在二五億ルーブルであるから、それに対して鉄状価格差四〇％、すなわち一〇億ルーブルに直せば半分の五億戦前ルーブル、前の租税と合して七億三千万戦前ルーブルが無償で掠奪されつづつあるのである。これで農村が貧困を加えなければ不思議である。のみならず、農村に於ける実地以上の主人は富農である。かれ等は器具、牛馬、種子の所有者であり、農村の副業たる小企業の持主である。加えて、村商業の経営者である。ボルシェヴィキは穀物の困難を増大することを恐れて、一九二五年の党の第十四回大会で土地及其他の生産手段の貸与を更に積極的に認めた。すなわち、事実としては、貧農は土地を富農に貸与し、かれはその自身の土地の小作人であるより他のない境遇である。すなわち、共産党の農民政策は富農の保護助長策である。

このような農村の分化行程の実際は、益々富農の手に穀物を集中せしめ富農は、それをもって投機を行い政府の穀物政策よりも優位にあって政府を苦しめたのであるが、それは自縄自縛である。

「ロシア五カ年計画の正体」

ネップ及ネオ・ネップの結果あらわれた社会状況は、明らかにロシア民衆の反ボルシェヴィキ的再革命を準備せしめる状況にあった五カ年計画は、その重大なる動向を霧散させる魔術として登場したものである。それは恰も一九二一年の危機に、ネップによって其の危機を転向したように。

五カ年計画のために投下する資本総額は五カ年を通じて七百七十二億留乃至九百二十一億留に達するか、最初の年度一九二八・九年の投資額は百〇三億留、三二・三年の投資額は二百〇八億留、平均投資年額は百五十四億留乃至百八十四億留である。この予算数字を見た者はその莫大な数字に驚き、五カ年計画とはいかに膨大な内容であろうかと、まづ最初に驚愕するだろうと思われる。而して、それが先づ無条件のロシア賛美の導火となるのである。

然るに、『大工業的技術、大生産はわが国（ソヴィエト）では比較的微弱である。すなわち、わが経済における生産物の多くの部分を生産しているのは、これらの大工業的技術や大生産ではない。』『然るに社会主義の基礎は工業にある。（レニン）』それ故、五カ年計画の要点は工業化にある。『モメントは国の工業化である。私はここで同志諸君にプロレタリア独裁の基礎は大工業の発展であることを証明する必要があるまい。（ヴァルガ）』そこで必要なのは、西ヨーロッパ及アメリカからの機械の輸入である。然るに一九二八・九年度の輸入総額は八億戦前留である。これは帝政時代に於ける十二億留（一九一三年）に足らざること四億強である。喧伝せられる工業化の源泉は、この僅少な八億によって購入した機械類によって賄われているにすぎぬ。莫大な数百数十億の予算数字は一般資本主義国家の予算を見る眼でみると大間違いを生ずる。ロシアの国家予算は収支のつじつまさえ合えば数字量は勝手である。国内のことは金額の数字量が基礎になっているのではなく工業及業生産額のバランス、数量のバランスが基礎なのである。

国内で消費した残りの物資（主として農産物、特に穀物）が輸出されて金に化けそれが五カ年計画の工業化の資源にあてられているのである。それは、さきに述べた八億留にすぎない。このことは五カ年計画のインテキ性を示すもので、莫大な数字からは、絶対に内容を想到することはできぬ性質のものであるならば、この八億留の負担者は一体誰であるか、『我々の工業の完成（五カ年計画）に要する資本を自国内に労働するものの労働によって割り出さねばならぬ。六千万の勤労農民がこれに貢献せねばならぬ。この貢献は我々が資本主義諸国の水準に絶体的に到達するまで鉄状価格差の形態に於いて必要なのだ。云々。（ヴァルガ、一九二八年コミテルン第六回大会にて）』

「五カ年計画と農民の窮乏」

前説のように該シェーレは四〇％であったが、今日、五カ年計画を農民の負担に於て遂行するために、穀物はきわめて廉価な国定相場によって政府が買占めつつある。五カ年計画のために、カナダ其他に於ける小麦のダンピングは有名である。農民生活の困窮は想像に余りあるところで、一九二九—三〇年の時期に於て、ソヴィエトの無法に抗して捕縛追放せられた農民の数は二百万、銃殺された者は六万、公表の統計によつても数千人にのぼることが告知されている。穀物地方では純粹貧農の暴動が起り、共産党員が襲撃をうけて殺害される事件が頻々として報導せられ、軍隊の一部にも不穩の状があると伝えられている。が、それは、もとより既に然かあるべき筈のもので何等怪しむに足りない。ただ隠蔽されている。共産党は党内より、ロシアはロシアの内部より崩壊する。

「コルホズとは何か？」

五カ年計画によるコルホズ（集団農場）は同じく穀物蒐集の便宜のために強制されつつあるものである。が、独立農民をプロレタリア化する、何等の自由のない生産の爲の一個の機械化しようとするボルシェヴィキの努力に対し農民暴動の発動は生きている唯一のそして最後の道である。昨年三月スターリンは、コルホズへの強制加入の手を緩め、加入は本人の自由によることにした。之がため在来の六

○%まで達した加入率は二五%に減少したのである。スターリンのこの暴政の徹去は農村に於て往年の農奴解放令とひとしく考えられた。それは、其強圧手段のいかなるものであったかを剪断させるものである。然し、限りある蒐集設備のダレピング、富くじによる所有階級の蓄積のかき集め、公債による財源は目下行き詰りつつある。五カ年計画による各企業の発展テンポは各部門が一致しないために、新設された工業には燃料がなかったり、材料が整備しない。これでは生産は不経済的に行われざるを得ない。そのために遅れたる部門は急激なるテンポを加える為に、更に資源を開拓せねばならぬ現状にあるが、それは結局、コルホズの強制加入による農民からの穀物徴発によるダンピングから生ずる貿易収入によるほかはない。而してこれは更に深刻なる危機を用意する端緒である。

「一週五日制と機械工業の無休運転」

一方、工業部門では、生産率の増加をはかるために「資本を費やすことなく、即時好結果を納める」方法が採られている。一週五日制による機械の無休運転は、その一種のあらわれである。然し、分業生産の無興味、生産の全体に対する無関心等の必然的原因のために、仕事に対する戦費的奨励の制度にもかかわらず能率は向上しない。その上、上部からの実状を無視した生産増加の命令は、生産品の品質の低下となつて表われつつある。報導によれば、製鉄業は一六%乃至六〇%の不合格品を出し、繊維工業は三〇%、皮革、ゴム、機械工業、殊に喧伝されるトラクターは多数の不合格品を排出している。ロシアに於てはトラクターは三万台弱であつて、合衆国の百万台のトラクターに較ぶれば比較にならない。アメリカではトラクターの作業時間は一年に五百時間内外であるが、ロシアの国营農場では二千五百時間も働らいている。それ故トラクターの耐久力は早く弱められ、次々に新品が要求されるであろうが、ロシアのトラクター製作がそれに応じ、且つ、拡張された新耕地及び配給をみざる地方へのトラクターの供給に應じうるか疑わしいのである。

「スターリン演説の内容と尖端的資本主義」

五カ年計画実施三年目の本年六月二三日、スターリンは産業者大会で産業労働政策転換の演説を為した。更に、それに先立つて二月四日、工業当者大会に於ける演説に於ても述べている。「何ゆゑに吾国には集権制が行われないか？吾々ボルシェヴィキの間に、技術、経済、財政の問題に通曉するものが多数輩出せざるがぎり、吾々は真実の集権制を実施することは不可能であろう。(スターリン)だが、五カ年計画の重要な目的は『国家の経済体系における資本主義的要素の克服と社会主義的要素の強化』にあつた筈である。が、それは三ヶ年の実行ののちに失敗だということをスターリンは認識したのである。ネップ及ネオ・ネップこのかた発展し充滿した資本主義要素を急速に克服して国民経済の工業化と社会化の速度を緊張するはずであつた党の最後の努力は大なる暗礁にのりあげたのである。

それは矢張り、中央集権的企画経済の成立が絶望であることを物語るものである。いかに党が独裁のヘゲモニーを掌握しても、かれ等の政策を労働大衆に強行することはできない。強いて夫れを行うとするならば大衆のボイコットに遭遇せざるならぬということ、並

びに叛乱を招いてボル政権を失はねばならぬということである。それを恐れてヘゲモニーに執着する党は、企画経済と順応経済の間を日和見的に彷徨せねばならぬことを示している。では、スターリンの産業労働政策はいかに転換されたか。それは、再びネップへ退却なさうとするものであつて社会主義的政策から資本主義的要素への復活である。これは企業の採算主義、インテリ及技術家の社会的優位、差別賃銀主義、企業の自治主義等によって示されている。

「投資財源効果とゲ・ペ・ウの恐怖網」

五カ年計画の投資の財源は漸次縮小されつつある。ゲ・ペ・ウの恐怖網によって最初農村からとり出した財源は、今日枯渇を見たのは当然である。といつて外国のクレジットに依存することは、その外国の資本主義によってロシアが支配されるということである。そこで、財源を企業自体の蓄積のうちから取出さねば他にみちがない。然るに官業の性質上労働は怠慢に行われると共に、反対に、生産増加に熱中すれば採算は顧みられない。材料は惜気なく使われ、粗造濫造に陥り、不生産的な支出は膨慢化するのである、それ等の事情上生産原費は昂騰し、財源の蓄積はもとより、外国市場と競争することもできないのである。そこで、再び企業は資本主義的に経営されることになり、労働者は淘汰せられ、資本的合理化が行われ技術家に社会的優位があたえられ、産業設備などは顧みられず不完全なるままに余計な一切の不経済を切りつめての営利経済主義が復活した。

「ロシア五カ年計画の批判」

ボルシェヴィキは有ゆる宣伝によつて五カ年計画の完成に殆んど宗教的な有難味を感じしめ、ゲ・ペ・ウの恐怖網と呼びて民衆の生活は犠牲に供しつゝある。が、それはいつまで続くか。五カ年計画の成果は、スターリンの演説によつて示された阻礙は決定的なものである。かれ等は産業突撃隊を組織したり、奨励方法、懸賞金、あるいは成績の公表によつて当事者の虚栄心を刺激したり、プラウダ、イズヴェスチヤその他の党新聞は狂気のように五カ年計画の提灯もちに日も足らざる有様であつて、民衆をその昂奮裡にすることに自余一切のものをみろいとま無からしめているが、漸やく疲労があらわれてきた。計画は進捗せず、資本主義的要素は復活し、生活は長い欠乏に耐えきれなくなつて来ている。すなわち、ロシアは経済的疲労から政治的危機に投げこまれる日が漸次近づきつつあるということである。

ロシア革命あつてより十四年、ロシアの状況には何等の発展がない。黎明のあけ行かんとする氣勢は少しも感じられないのみか、同じ個所をたどるぐるど廻っているかのようである。喧騒なのはただその足音ばかりで依然たる堂々めぐりである。而して、その事情は何に根ざしているのか。それを究明してそこに意義を見出すことが必要である。それは、ロシアに於ては徹底的破壊が足りなかつた。大胆なる行為はあつたが大胆なる思想がなかつたことである。

民衆は革×と同時に完全に都会を廃墟と化せしめる方法及其絶体×要なることを知らなかつた。都会の存続するかぎり、その所要な

る糧食を農村にもとめねばならぬ。然しながら、都会に於ける工業は軍事行動時代に於ては必ずしも停滯せざるを得ない。運輸機関の不定時的閉鎖は材料、燃料、並びに生産に必要な諸物資をして困難ならしめると共に、技師階級のサボターージュ及逃亡によって、暫時的生産の停頓をきたすことは予想するに難くないところである。その故に、工業の生産能力は零にちかいと云ってよい。であるから、農村にとむる糧食は、勢い強制無償徴発の形となって現われることを通常とする。然らば、無償徴発をある短期間現象として一応承認すると、その次には何うなるであろうか。

若し、都会に於ける諸工業が徐々に復興しうるものとしても、そこには必ずしも銜状価格差の問題が起きる。都市と農村との双方交換に於て妥当なる交換は行い得ない。というのは物の価値量はいかなる目安によっても計算することはできぬからである。もちろんマルクスの労働価値は成立しない。かように各々が計量し能はぬ時に、どうして合理的な交換が行い得られるか。その場合は、どちらもが自分に有利に交換をのぞむことは事物の自然である。

然し、強いに都会と農村の間に交換を行うならば、そこに求められるものは生産と消費を按分し企劃するある組織の要求が起こることである。而して、この組織は性質上権威的上級の組織として慥えられ、ある支配権を行使する権限を附与せられることが明らかである。この組織が總ては全社会の上に積極的なヘゲモニーを設置することはまた明らかである。ロシアに於ては、ボルシェヴィキがこの組織をその手に掌握することにより、独裁の端緒をつくった。都会と農村との社会的分業が行われる大社会では必ずしもこの組織が必要と要求せられ、それが実現したのちには却って社会生活を制約するところのものに終わるのである。

そこで、無政府主義は工業農村（農工合体の無政府コムニオン）を社会建設の目標とする。それは大社会の概念ではなく、個々の小社会の概念である。社会はこの全小社会多数の聯合によって占められるのである。而して、これでなければ民衆生活は民衆生活たることが出来ないのである。

「ロシア革命失敗の原因と結果」

凡そ、人間の労働行程の特徴は、労働行程の最初から、あらかじめ意識する積極的な目的のもとに行われるという点にある。蜜蜂や蜘蛛もひとしく、熟練した技師よりも巧みに巣をつくるが、それは意識的に頭脳のうちで設計しつづけるのではなく、遺伝と慣習と本能の力であり、単に無意識的な反射的動作である。人類の動作は漫然と機械的に動くものではない。

社会の大改造にあつても、漫然とただ過程するに非らずして一定の実現すべき社会理想の目的があらねばならぬ。新社会の概念は、観念的ではなく生物学的に把握されねばならぬ。無政府主義の自由コムニオンはこの帰結である。

マルクス主義は、社会改造の動機を人間の目的にもとめず、「力学」にもとめた。だから、「改造」というのは当然なく、「過程」と云うが正しい。マルクス主義は「過程の学説」で「改造の学説」ではない。没価値的力学的であることは最初から当然である。社会は

一定の生産様式に應ずる結果としての現われにすぎない。それ故、あらわれる社会は『人々の欲すると欲せざるとに係りない。』（ブハリン）ある社会が、人類の幸福生活に合目的であるか否かの問題は、マルクス主義によれば問題の根本そのものが間違っている。マルクス主義は、いかなる社会が人類を解放するかでなく、一定の社会では人々はかく規制せられることの把握である。マルクス主義では、人類の要求する合目的的社会は決して来ない。

それなのに、大多数の人々は、ロシアをもつて解放されたる国、解放途上にある国として恣意的に認識しようとするのであるがそれは全く意味を為さない。

ただ、マルクスは語る。資本主義は大企業経営に集約される。が、それは資本主義自体に内含する原因のために崩壊する。資本家は敗退する故に、国家のヘゲモニーはプロレタリアの手に移る。而して大企業の企画経済化した国家の法則に従って人類生活が在ると言う。マルクス主義は資本主義経済制度をもつて、もつとも発達したる生産様式と見る。その生産様式とは大企業及集中化であつて、之れをプロレタリアが独裁することを以て終わる。然るに大企業及集中化は最も重要な国内消費必需品については空想経済学でしかない。事実と実際には決して行えないところのものだ。マルクス経済学の根本的認識不足がここにある。集権経済は決して成立し能わぬものなのである。経済は資本主義経済か、雑把な意味での国家資本主義か、無政府主義経済一分産経済かの三個以外にはあり得ないのである。

「ボルシェヴィキの切札と魔術」

大工業が発達せず、産業が集中化しなかった後進ロシアが崩壊したのは法則外れであつた。ネップ、ネオ・ネップ、五ヶ年計画はその苦悶の表徴である。集中化、大企業化が完全に発展してはじめてプロレタリアによる企画経済は出現できる。（中小工業は決して大企業化しない、集中化しない。それ故、ロシアが譬え高度に発展したのち崩壊したとしても、殆んど現在のソヴィエトと変わらない状況を彷徨することは決定的だ。）この意味では、マルクス主義は解放に関する論理でないのみか、その力学そのものも成立し得ないものだ。すなわち、ボルシェヴィキは革命と解放の見地よりすれば、また反動である。

ネップ、ネオ・ネップ、五ヶ年計画、それ等は抑々何であるか。それには、どんな微細な革命的意義は無い。

今日、革命の湧はこの国に高まりつつある。無政府主義は社会大改造の基底である。それは新しい確信をもつて、民衆の胸に弾力を植えつつあるのだ。（完）